

作成日：2013年6月14日（木曜日）

作成者：JRC担当 佐藤恵太 山下美菜

ささりんどう祭 JRC 展示 報告書

◆生徒会としての企画・運営の理由と目的

1. 今年度、ささりんどう祭のテーマ「世界遠望 地域活性」に沿った展示であること。
2. 世界の現状として、地雷禍（じらいか）を三浦学苑の生徒に見てもらい、JRCの活動の一端を知ってもらう
3. 同時に世界で起きていることの実情を知り、世界的な視野を広げるきっかけをつくる。

◆内容

1. 「奪われた手足 ～カンボジア・地雷とともに生きる人々～」地雷禍写真 展示
 2. 地雷模型展示・地雷について・少年兵についてのパネル展示
 3. 日本赤十字 横須賀奉仕団 衣笠分団についての取材内容の発表
- ※ ささりんどう祭のテーマのうち、世界の部分を、地雷禍の写真展で表現し、地域の部分を分団の展示で表現した



こんな大きな写真を展示することは初めてでした。



大きい写真は、教室中央に壁を作って展示しました。



衣笠分団の方もたくさん来てくれました。



多くの方が、見に来てくれました。



必要に応じて説明に当たりました。



ご来場有難うございました



生徒会の企画で写真展は、初めてでした。

◆写真展担当からの反省

今年は、三浦学苑として JRC に正式に加盟しました。加盟後の第一弾のイベントが、このささりんどう祭での「写真展」でした。写真展を遣る事になって、4月中に神奈川支部に訪問しました。その時、実際の写真を見て、その大きさにびっくりしました。大きい方は、畳大の大きさ。小さい方は、半畳の大きさです。どうやって展示していいのかわからない大きさでした。

幸い本校の生徒会顧問の武田先生が、かつて写真部を率いていたこともあり、展示方法は心配ないと、言ってくれたので、安心してお借りする事が出来ました。

今回の地雷被害についての写真は、**糸川真木彦**さんの「**奪われた手足 ～カンボジア・地雷とともに生きる人々～**」という作品です。たぶん、もっともっとたくさんある写真の一部だと思います。たくさんの人と出会い、地雷被害を訴えるために糸川さんは、作品作りをしてきたのだと思います。

写真展の評判はとても良く子供から大人まで幅広い年代の方々にお越しいただきました。

他にも、日本赤十字神奈川支部の皆さんを始めとして、横須賀奉仕団の方々、衣笠分団の方々、この一年間の間に知り合った赤十字関係の方々が、みんな来てくれた感じです。本当に感謝です。

今回の写真展示で一般生徒の中から「私たちがいかに平和ボケしているかが分かった」という声も聞きました。「日本に生まれてよかった」というのもありました。見て感じてくれた人は、みんな、「幸せって何かな？」なんて考えたんじゃないかな。そんな気がします。

生徒会の反省会では、宣伝不足がでていました。もっと多くの人に見てもらいたかったです。きちんと、宣伝の企画までこなせる力が欲しかったです。本当に痛恨の極みです。

次に、この規模の活動をするときには、十分な効果が得られるような宣伝企画に力を入れたいです。

謝らなければいけないのは、衣笠分団の展示でした。期日が迫っているにもかかわらず、資料をしつかり読み込むこともできず、ほとんど、顧問の武田先生に丸投げのような状況になってしまいました。先生に注意を受けたように、計画的に記事の内容や展示方法について、考え方を持たないといけないと思いました。写真も折角撮っても全滅して、一枚も使えないようでは、担当は失格です。なんとか、間に合わせの展示にはできましたが、反省することが多すぎです。

私隊は、これからも、今回のささりんどう祭のテーマのように「世界遠望 地域活性」を軸に活動をしていきたいです。今回の活動で、より一層決意が固まりました。

